

ざんぐり

京都SKY大学
同窓研修会会誌
第107号



大山崎町 観音寺・本堂前広場 秋の地域活動



一 目 次

秋の地域活動	「宝積寺から観音寺への地域活動」に参加して	伊勢田龍雄(2)
共催講演会	「逆説の日本史」を聞いて	寺田泰三(3)
共催講演会	“死を背負って生きる”を聞いて思ったこと	吉村辰江(4)
歩こう会	第46回目標歩数歩こう会の結果報告	(5)
事務局だより	令和4年度 通常総会・講演会のお知らせ 他	(6)

発行 / 京都SKY大学同窓研修会
編集 / ざんぐり編集委員会

秋の地域活動 2021年11月26日

「宝積寺から観音寺への地域活動」に参加して

地域活動担当理事 伊勢田 龍雄

11月26日、JR山崎駅に集まった24名。紅葉真っ盛りのもと、地域活動が行われました。JR山崎駅前には妙喜庵（国宝「待庵」）があります。待庵は豊臣秀吉が山崎城築城に際し、堺から呼び寄せた利休が、大山崎在中に建てたといわれる茶室です。今回は宝積寺(宝寺)から観音寺(山崎聖天)を巡るコースです。宝積寺は神亀元年(724年)、行基菩薩により建立されました。天正10年(1582年)、天王山が豊臣秀吉と明智光秀が戦った山崎の戦いの舞台になり、その際、秀吉の本陣が置かれた寺です。観音寺は昌泰2年(899年)、宇多法皇が御願寺として創建されたと伝えられています。どちらの寺も天王山の中腹にあり、春は桜、秋は紅葉の名所と知られ、多数の観光客が訪れます。今回は大山崎ふるさとガイドの会の御協力を得、ガイドしていただきながらの地域活動となりました。

JR山崎駅から宝積寺までは、急勾配の坂道。200mぐらいの道が辛くて体力を奪ってしまい、休憩を取りながらの歩きでした。樹々の紅葉は素晴らしいのですが、道中の辛さの方が勝っていたよう。



宝積寺・山門

山門からは、3重塔、閻魔堂、十一面観世菩薩が安置してある本堂と重要文化財の建築物が迎えてくれました。ここからはふるさとガイドの会の真骨頂。2人のベテランガイドさんが、丁寧に案内していただきました。圧巻であったのは、閻魔堂内に安置してある閻魔様を含んだ5体の木像。これは、地獄の法廷を現したといわれています。本堂では、十一面観世菩薩の説明をしていただき、充実した時間でした。

宝積寺から観音寺までは、竹林のこみちを歩きます。大山崎町は有名なたけのこの産地。道中、直売所らしき小屋があり、整備された、たけのこ畑が続きます。眺望が開けた所からは、宇治川、木津川、桂川が合流して淀川になる三川合流が見え、また天下分け目の戦いが行われた、山崎の合戦の場所を見ながらの観音寺への道中でした。

観音寺は通常山崎聖天と言われ、地元の方々に親しまれています。ガイドの方から観音寺の時代背景を詳しく説明していただきました。

観音寺から下山途中に2本のイチョウの巨木があり、今が落葉の真っ盛りの頃、黄色に敷き詰められた絨毯を踏みながらJR山崎駅に向かいました。

今回は、歩くだけではなく、大山崎ふるさとガイドの会様の協力で、大山崎町の歴史を説明していただいたの地域活動。充実した一時でありました。道中、ほとんどゴミもない状況でした。ガイドの会様に感謝し、流れ解散をいたしました。

共催講演会 2021年11月29日
講師：作家・歴史研究家 井沢 元彦 氏

「逆説の日本史」を聞いて

研修講座担当理事 寺田 泰三

京都SKYシニア大学の共催講演会が昨年11月29日、作家で歴史研究家の井沢元彦氏を講師に招き、京都テルサホールで開かれた。新型コロナウイルス感染が落ち着いた時期とあって約400人が受講。SKY大学北部キャンパスの舞鶴会場と中継で結んだりモート講座も実施された。井沢氏は「逆説の日本史」と題して、具体的には朱子学が江戸時代に与えた負の側面について指摘し、その影響が残る中で明治・大正に活躍した渋沢栄一の偉大さについても切れ味鋭く話した。

冒頭、井沢氏は、歴史は色々な出来事につながりで見ることが大切と強調。その例として朱子学を取り上げた。朱子学は、戦国の動乱を体験した徳川家康が、君臣父子の上下関係を重んじる朱子学を統治の規律にすべく武士階級の教養として奨励。しかし、それまで日本にはなかった朱子学の持つ商業や商人を軽視する風潮も武士に広まり、それが江戸期の経済活動を規定してきたと指摘した。

井沢氏は、例えば江戸時代の享保、寛政、天保の幕政三大改革は、いずれもコメの増産で立て直しを図ろうとして失敗した。一方、評判の悪い田沼意次の改革は商業振興で税収入を増やし幕府財政の改革を図ろうとしたもので、評価できる改革だったが、商業を卑しむ武士階級の意識が強くて改革はつぶされた、と言う。

江戸末期、ペリー来航のことも興味深い話だった。当時、不平等条約を志向する英国とは異なり、米国、ロシアは当初、日本に対

等な関係で貿易をしようと申し入れてきた。しかし、幕府は武士に商売をさせようとしているとして申し入れを拒否。紆余曲折のうえ不平等条約へと進んだ、と指摘した。

このような意識は明治新政府にも引き継がれ、維新直後の経済混乱にもつながったと言う。そんな中で、日本の経済発展の基礎をつくった渋沢栄一こそ天才と、井沢氏は強調する。元々、朱子学は孔子の教えを基にするが、孔子は商業や商売を卑しむことはなかった。江戸時代の教養であった論語にも商売を悪く見る表現はない。渋沢はその論語を理解していたからこそ、信念を持って日本の経済発展につき進んだ、と言う。一方、中国には渋沢のような人物がおらず辛亥革命後、資本主義が健全に発展できなかった、と締めくくった。

「渋沢栄一は天才。日本に渋沢栄一がいて本当に良かった」と強調する井沢氏。久しぶりの共催講演会で熱気あふれる会場。受講者は歯切れが良く、話題が幅広い井沢氏の講演を熱心に聞き入っていた。



井沢元彦氏

共催講演会 2022年1月17日

講師：淀川キリスト教病院名誉ホスピス長 柏木 哲夫 氏

“死を背負って生きる”を聞いて思ったこと

研修講座担当理事 吉村 辰江

京都SKYシニア大学共催講演会が1月17日、京都テルサホールで、講師に淀川キリスト教病院名誉ホスピス長の柏木哲夫氏を招いて行われた。柏木先生はホスピスの場で約2500名の看取りを経験されている。

★老いと死★

昔は考えもしなかったこの命題。年代に依って死の捉え方は変化してきました。“毎年毎日死が私に近づいてくる”、“死が追いかけてくる”。私は死に向かっていきっていくのか、死に追いかけているのか。一休さんの狂歌で“門松は冥土の旅の一里塚めでたくもありめでたくもなし”。私たちは日々老いて、死に向かっていきます。サマセット・モームは“人間の死亡率は100%である”と言っているそうです。この皆に平等に与えられている死を考えていなければならない。“人は日々死を背負って生きている”。私にはこれらの言葉の意味を充分理解しているとはいえません。ただ、“生と死”は背中合わせだということだけは理解できます。私には今まで生きてきた時間と、これから生きていく時間を比べれば、圧倒的にこれから生きていく時間は短い。そして老いを日々否応なく感じさせられています。多くの英雄たちは不老不死を願い、それを果たせず死んでいきました。人間とはやっかいな生き物です。誰も知らない死と向き合わなければならない。

★人は生きてきたように死んでいく★

この言葉は、私には厳しい。ちゃんと生きてきたでしょうか？人のために時間を費やしてきたでしょうか？人に寄り添ってきたでしょうか？人間力を高めてきたでしょうか？人はしてもらったことより、してあげたことを覚えて

いる。私は人に何かしてあげたでしょうか？とても自信はない。

★寄り添う心★

寄り添うとは感謝とやすらぎをかんじてもらうこと。

寄り添う人に求められる人間力には“聴く力”“共感する力”“ユーモアの力”等々10種類あるそうです。傾聴し、真摯な瞳で見つめる。そして共感する。でも、私は最も大切なのは“添えられている手”と、感情の発露である“大声で泣くこと”だと思います。過去に辛かった時に、背中に添えられた暖かい手のぬくもりを忘れません。何も言わなくても、その手の暖かさは、私の緊張を解きほぐしてくれました。



共催講演会のレジメより

人は命の苦痛（身体的、精神的、社会的）をやわらげたいと望む。今の医療では、ある程度のことは可能となる。そして、いのち（魂の痛み）をやわらげる。

これからの医療に求められる“いのち”を救うケア。これがホスピスなのでしょうか。

今、私に残された時間はそんなに多くはありません。これからの生き様が私の死を決めてくれるなら、皆に平等に訪れる死を背負いながら、確かめてみたいと思います。

第46回 目標歩数歩こう会の結果報告

2021年10月～11月の2ヵ月間に亘り「目標歩数歩こう会」を実施し致しました。今回も新型コロナウイルス感染症で緊急事態・まん延防止が発令中、16名の方より貴重な実績報告をいただきました。皆さまありがとうございました。



順位	氏 名	合計歩数	1日平均歩数	目標歩数	達成率
1	福岡 克巳	1,496,063	24,526	20,000	123%
2	赤塚 信雄	1,228,676	20,142	15,000	134%
3	小田 和昭	1,220,256	20,004	15,000	133%
4	五十嵐将三	1,052,290	17,251	15,000	115%
5	木村 高志	812,925	13,367	10,000	134%
6	堀井 信一	779,254	12,744	12,000	106%
7	亀山みさ子	634,572	10,403	9,000	116%
8	内藤 彰	625,907	10,260	10,000	103%
9	木下 明美	611,538	10,022	8,000	125%
10	井上 昌幸	531,200	8,710	8,000	109%
11	清水 将由	505,407	8,285	7,000	118%
12	中路 賞江	498,773	8,176	6,000	136%
13	近藤 輝雄	409,531	6,714	5,000	134%
14	関矢 幸子	323,316	5,300	5,000	106%
15	干場 信一	319,849	5,243	5,000	105%
16	堀 正子	265,683	4,355	5,000	87%
合計		11,315,240	185,502	155,000	120%

(敬称略)

次回は4月～5月です。

(健康福祉担当理事 米澤 小林 木村)

事務局だより

行事予定

令和4年度通常総会・講演会

日 時：令和4年4月22日(金)
午後1時30分～

場 所：ハートピア京都 3階 大会議室

講演会：講師：元京都市歴史資料館
宇野 日出生 先生

演題：京都の地蔵盆

(詳細は別紙を参照して下さい)

春のウォーキング

日 時：令和4年4月11日(月)

場 所：洛西ニュータウン方面

(詳細は別紙を参照してください)

春の地域活動

日 時：令和4年5月13日(金)

場 所：山科区 栂辻駅～小野駅

(詳細は別紙を参照してください)

春のバス研修旅行

7月に実施する予定です。次号ざんぐりに
記載予定の行事案内にご期待ください。

次号「ざんぐり」(108号)の予定

発行日：令和4年6月15日(水)

ひねもす
のたりのたり

にゃんこ?



副会長
米澤 可矢



京都見聞・こぼれ話

第3号「京都の通り名の歌」をお届けします。